

平成23年度 後期12月に行われた生徒による授業評価の集計結果は以下の通りです。

1. 設問内容は以下の通りでした。

1	先生の授業は、スムーズに行われていますか。
2	あなたは、授業を通して知識を得たり経験をしたりして、満足していますか。
3	先生の授業の進度（すすみ具合）は、ちょうどよいですか。
4	あなたが、参加しやすい授業でしたか。
5	先生は、授業中わかりやすく説明してくれていましたか。
6	先生は、生徒のことを考えて授業をしてくれていますか。
7	あなたは、授業に集中していますか。
8	あなたは、授業に前向きですか。
9	あなたは、学校の授業時間の他に、この授業の学習をしていますか。

2. 設問に対する生徒の解答の選択肢は以下の4種でした。

とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない
4点	3点	2点	1点

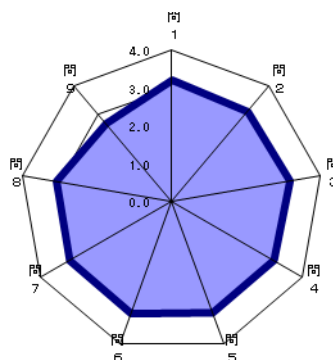
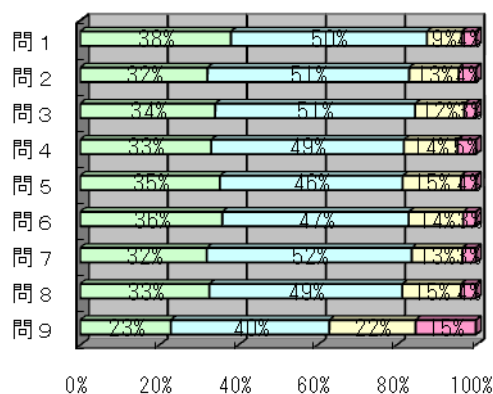
3. 各教科の結果は以下の通りです。

・各教科とも、左のグラフは各設問に対する回答率、右のレーダーチャートは、上記の数値で計算した各設問の回答得点平均です。グラフの下段に各教科の分析結果に基づいたH23年度の授業改善の状況と今後の課題を掲載しました。

<国語科>

1. 今年度の改善状況

教科で設定したテーマ ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得



・各学年で漢字テストを実施し、国語の基礎力の充実に努め、成果が見られた。プリントなどを作成し、それを活用することにより、家庭学習の機会を設けた結果、家庭学習をしていると思われる回答が前期に比べ後期では向上した。

2. 今後の課題

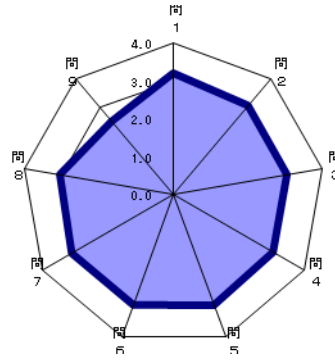
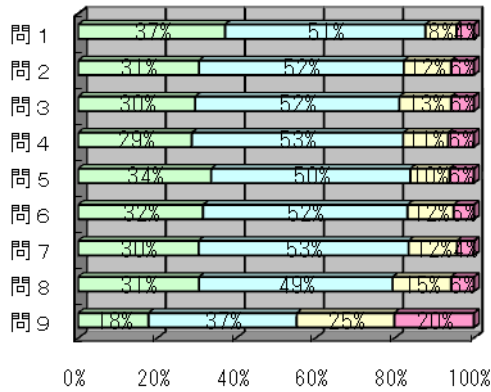
・より一層わかりやすく、勤勉意欲をかきたてるような工夫をし、教材を厳選できるように努める必要がある。

<社会科>

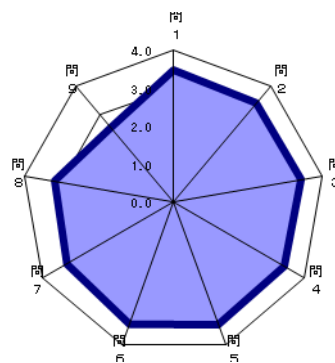
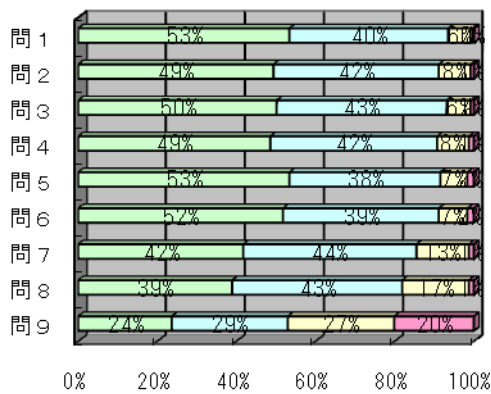
1. 今年度の改善状況

教科で設定したテーマ ② 授業での積極的な参加・発言

地理歴史



公民



・地理歴史・公民ともに、授業に消極的な生徒に対して個別に補習や課題などの指導を行ったことにより意識改善をすることがおおむねできた。授業時間以外にも積極的に勉強させるための意識付けや自主的課題などを提供したが、明確な効果が表れるには至らなかった。

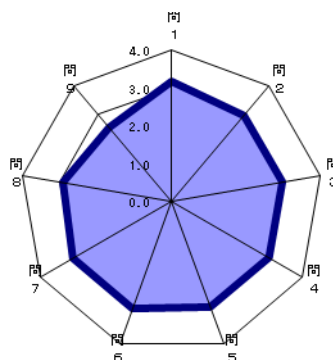
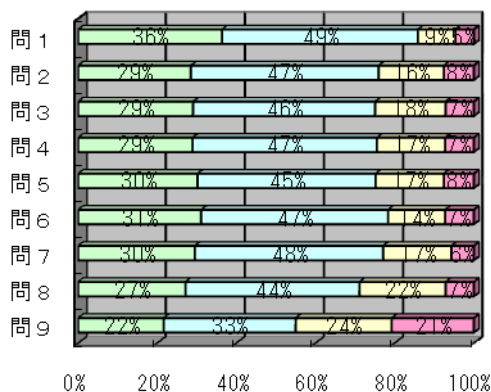
2. 今後の課題

・興味・関心を引き出し、家庭学習を習慣づけさせるための指導方法の工夫を継続的に行う。

<数学科>

1. 今年度の改善状況

教科で設定したテーマ ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得



1) 課題の回数を増やす

- ・前期の成績の悪い生徒に、課題を出したり補習をしたりした。危機感を持っている生徒には効果があった。生徒全体へも、单元ごとに課題を適切なタイミングで出して効果が上がった。
- ・成績が心配な生徒には、難しい問題を省いた追試を合格点に達するまで粘り強く働きかけ続け、さらにダメ押しの補習までおこなった。受けない生徒もいたのが残念である。

2) 授業中に授業に集中して取り組みための環境づくりとそのための指導に心がける。

- ・ノート・携帯電話などのマナーの指導を多くの先生がやっていたら生徒は授業に集中していける。ここに努力した。より多くの生徒に声をかけていくことが大事。
- ・後期の方が、授業内容が難しくなり投げてしまいがちである。1年生は能力があるのにやらなくなっていった生徒が一部にあり、周りに悪影響を与えた。この子たちのフォローが大事と考え、こまめに指導をした。
- ・苦手意識をもつ生徒にはプリント学習を個別に行わせ、得意な生徒とのレベル別学習ができるよう工夫した。

- ・3年生で進路に必要ななくなった生徒への指導も怠らなかった。

3) 参加型の授業を工夫することで、生徒の学習が無理ない速度で行われるよう配慮する。

- ・ヒントだけ教えて生徒同士で議論させる試みを行うなど参加型を押し進めたり、授業中の発問を増やすことで集中させた。

☆改善目標

家庭学習を自主的に行うよう自覚を促す。必要に応じて課題を出す。

- ・家庭学習は、相変わらず受身で行っている生徒が多い。提出はしてくるが、課題の意味を考えて取り組んでほしい。

2. 今後の課題

・授業を受ける雰囲気作りは授業改善の重要な取り組みだと考える。このことは教科担当だけでなく全職員で取り組むべきである。生活面は授業だけでは克服できない部分がある。様々な場面で様々な立場の教員が連携して指導をこまめに行う体制を今後も続けていくことが課題である。

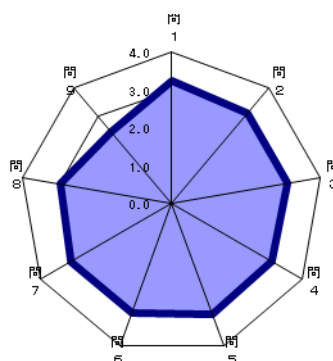
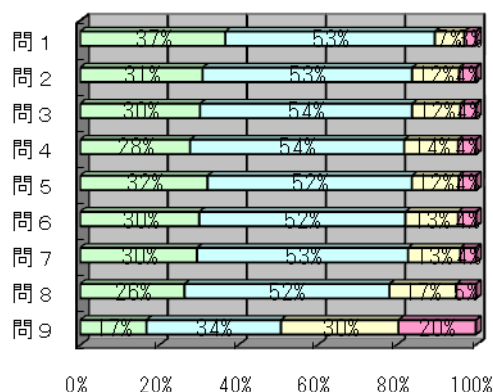
・また、授業評価の統計上では5が減って4が増えている質問項目があるが、量の側面と質の側面は違う。中だるみの影響が出るし、習熟度や学習意欲に個人差が大きく出る後期に、教科としてきめ細かな指導を行った。数字に表れない部分での指導効果の手ごたえを各科目担当が実感していることを強調したい。

・授業中に促しても取り組まない生徒にはそれ相応の成績を付けることが避けられないが、最後まで粘り強く指導していく姿勢とさらなる改善努力を持ち続けることが重要である。

<理科>

1. 今年度の改善状況

教科で設定したテーマ ② 授業での積極的な参加・発言



・授業展開の点で、ビジュアル的な工夫や IT 機器などを活用した授業展開、生徒同士で考察させるような生徒参加型の授業展開など工夫を凝らすことなどして理解を深めることができたのではないかと。授業のねらいや身に付けて欲しい内容を明確にし、生徒の実態にあった授業展開を行う必要がある。

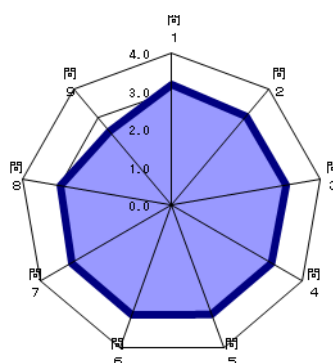
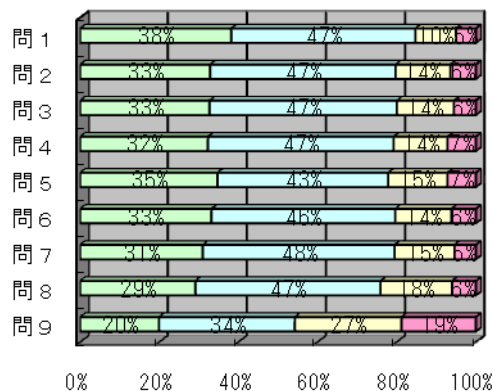
2. 今後の課題

- ・生徒の家庭学習の時間が少ない。生徒に家庭学習を促すように小テストや課題等を出して、基礎的・基本的な知識・技能の習得。
- ・言葉の表現方法、思考力を育む「考える授業」、生徒への働きかけ、興味・関心を引き出す方法。

<英語科>

1. 今年度の改善状況

教科で設定したテーマ ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得



- ・週一回の単語小テストを実施してきたが、練習用のワークシート等に練習をさせて提出させると良い結果がることが多かった。
- ・提出物を積極的に評価した結果、復習や自宅学習の頻度が増えた。
- ・学年の後半になると英語学習の必要性がわかり、知識・技能への関心が出てきて「2」の項目に対する意識が上がった。

2. 今後の課題

- ・「9」の項目の「授業時間外での学習」の割合の減少が見られる。

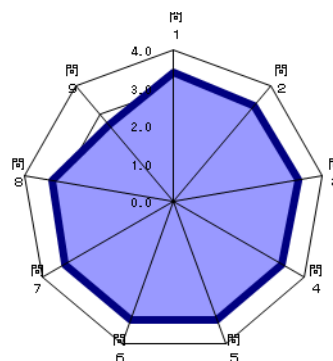
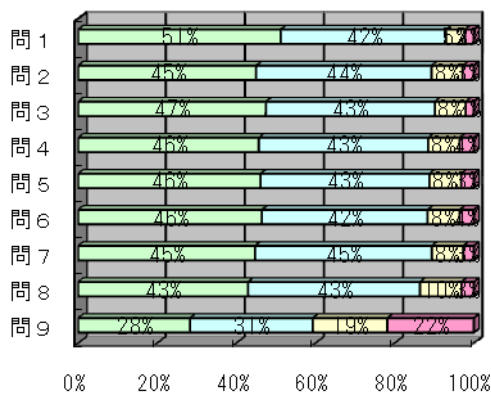
各科目で、レッスン毎の授業用プリント等を用意して予習を促しているが、家庭学習の習慣付けまでには至っていない。宿題としての課題等を用意して家庭学習への取り組みを引き続き促していきたい。また、1. の良かった点に挙げたような、結果に対する「積極的な評価」が効果的と考えられる。

<保健体育科>

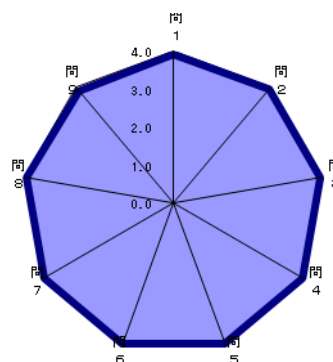
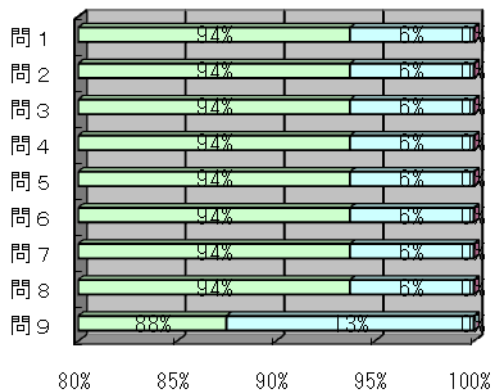
1. 今年度の改善状況

教科で設定したテーマ ② 授業での積極的な参加・発言

保健体育



専門体育



○単元ごとに各生徒の学習成果を具体的に示す。

- ・陸上競技と持久走では毎回記録を計測し、評価表を見ながら各生徒が目標を持って取り組むことができた。

- ・球技種目では明確に数値化できるスキルテストを行い、各生徒が技術の向上に励む目安になった。

○自ら考える機会を多く設定する。

- ・ダンス、柔道では生徒が主体的に取り組めるようにグループやペアでの活動を取り入れた。生徒同士が話し合い、協力する姿勢が見られた。

- ・2学年の保健では調べ学習と発表を取り入れ、様々な環境問題を身近な問題としてとらえられるようになった。

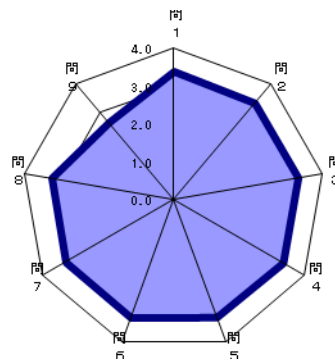
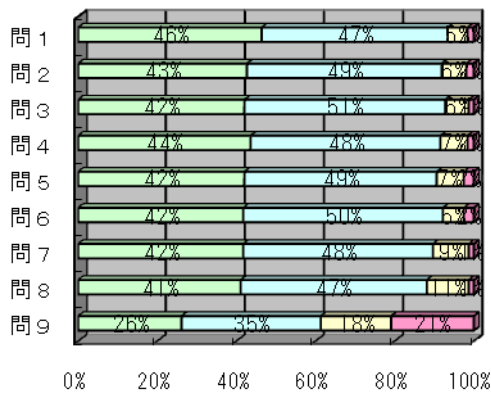
2. 今後の課題

・生徒による授業評価の結果は、前回とほぼ同じであった。授業時間以外の学習への取り組みについては、体育の授業形態を工夫する必要がある。

<芸術科>

1. 今年度の改善状況

教科で設定したテーマ ② 授業での積極的な参加・発言



- ・授業時間外の学習についての評価が、最も低くなっている。
- ・1～8までに関しては良好の結果であった。生徒の取り組みの意欲が高いと判断できる。

2. 今後の課題

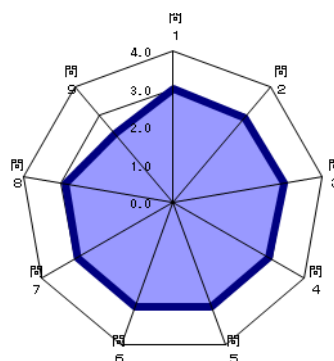
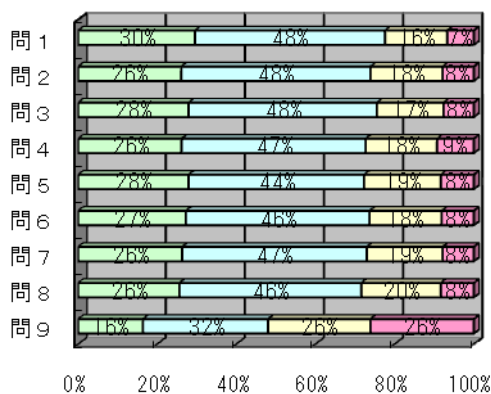
- ・実技教科であるため、授業での学習、練習、制作が中心となってしまうが、演奏の向上や作品の創造性を高めるために、日常的に芸術的な関心を高めるアドバイスを心がける。
- ・自宅でのテレビ等での情報や、日常慣れ親しんでいる携帯文化の中の、制作者の工夫に留意し、ものづくりのきっかけを探し出す工夫を指導する。

<家庭科>

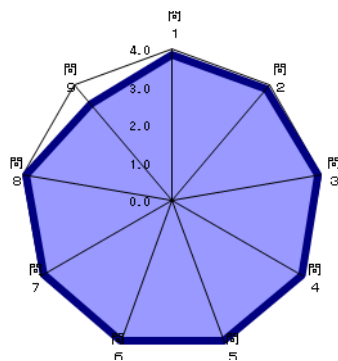
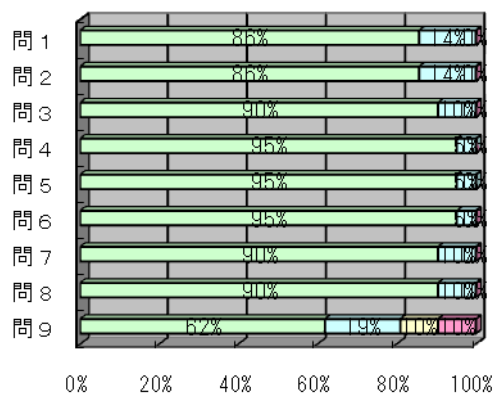
1. 今年度の改善状況

教科で設定したテーマ ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得

家庭



専門家庭



- ・実習では、基礎から応用まで生徒の習得レベルに合わせ指導を行なった結果、分かりやすかった、出来るようになったという感想が多かった。
- ・ホームプロジェクトを通して、学校で学んだことを家庭で実践する機会を設けた。生徒自身が自分の生活を省みて計画・実践し、それぞれの実態に応じた研究がなされた。
- ・授業での積極的な発言の場を多く設け、発言することに慣れていくように心がける。

2. 今後の課題

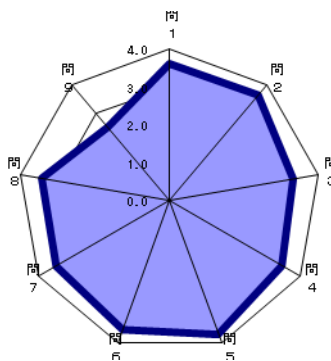
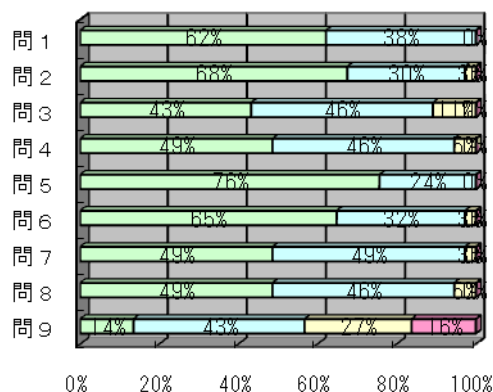
- ・授業評価では、多くの生徒が授業内容に興味・関心を持ち、前向きに学習していることがわかる。一方で、学校で学習したことを家庭で実践することが少ないことがわかる。自分自身に関心を持ち、学習した内容が自分自身の問題であるという認識がもてるような授業を心がける。また家庭での実践が継続して行なわれるよう声かけを行なっていく。
- ・授業公開を行い、教科内でも研究協議し授業改善を行なっていく。また他教科の先生方のご意見も非常に参考になり、今後の授業作りにかかしていきたい。
- ・テストを意識し授業を受けている生徒と、テスト直前まで学習意欲のない生徒が見受けられる。全ての生徒が興味・関心をもてるような、授業を行なう為にも、研修会に参加するなどし、最新の情報を得たり、スキルアップを目指したい。

<福祉科>

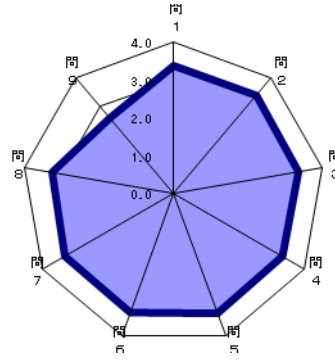
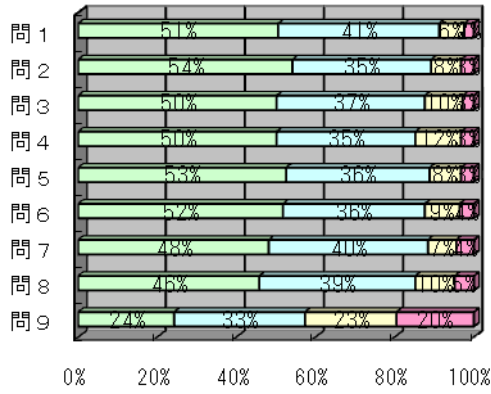
1. 今年度の改善状況

教科で設定されたテーマ ①基礎的・基本的な知識・技能の習得 ③応用力を高める発展的な学習

専門福祉



健康福祉

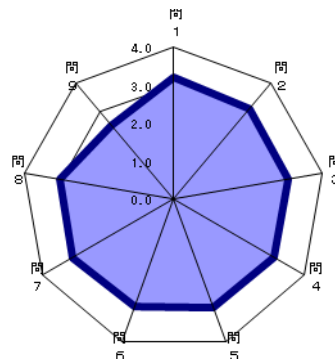
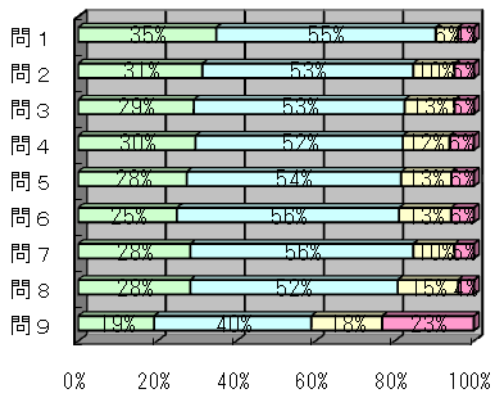


- ・授業内に発言をするのが苦手な生徒の中にも、意見をたくさん持った生徒がいると感じ、授業プリント点検の際に教員からのコメントの記述を普段以上に行った。結果、授業外に生徒が疑問を持った社会福祉の問題について、教員に聞きに来ることが多くなり、福祉に関心を持つ生徒が多くなった。
- ・認知症をテーマにした映画を題材に、比較的大掛かりなロールプレイ学習を行った。しかし、演じることを不得手とする生徒の中に、授業に苦痛を感じた人もいた。結果、授業の取り組みにばらつきが出てしまった。

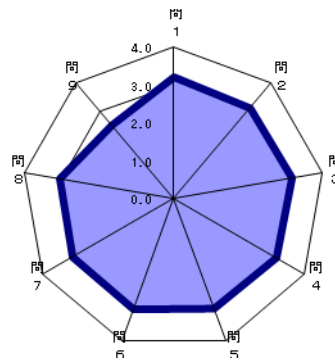
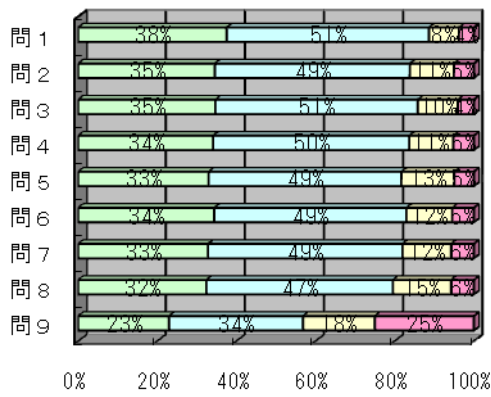
2. 今後の課題

- ・定期考査の結果を見ると、高得点の生徒とそうでない生徒での二極化が顕著であった。定期考査の得点だけが全てではないが、高得点生徒のモチベーションを維持するとともに、伸び悩む生徒への内的動機付けをしっかりと行い、能動的に学ぼうとする意欲を構築することが課題だと考える。
- ・授業評価の結果から、授業においては、概ね意欲的に学習を行っていることが分かる。他方、自宅学習の習慣が身についておらず、授業内のみでの学習に留まる生徒が多い。社会の様々な出来事に目を向け、社会福祉問題に対して少し関心を持つことでも自宅学習のきっかけとなり得るので、そのサポートとなるような授業支援を行う必要がある。

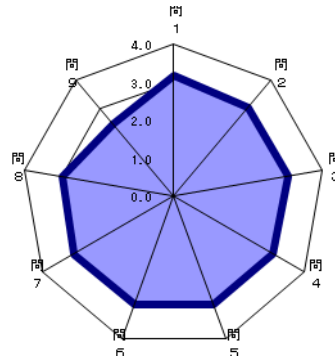
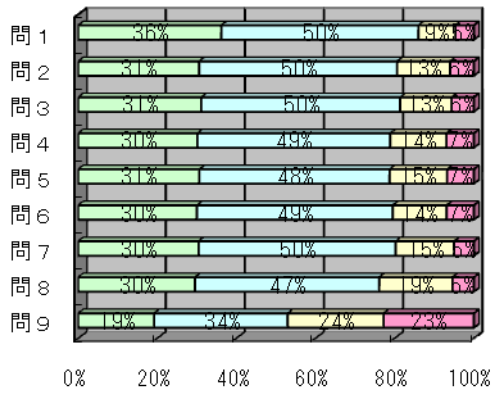
<情報科>



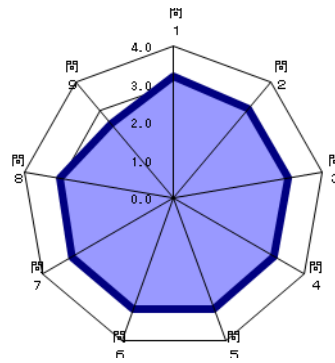
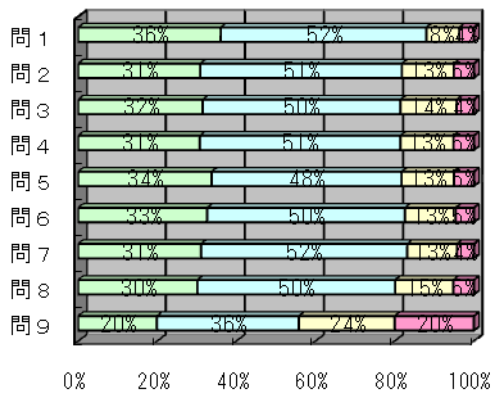
< 総合 >



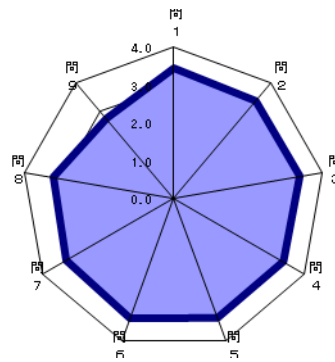
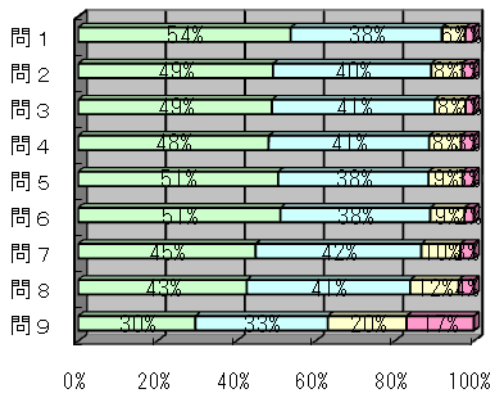
< 1年 >



< 2年 >



< 3年 >



< 全校 >

